

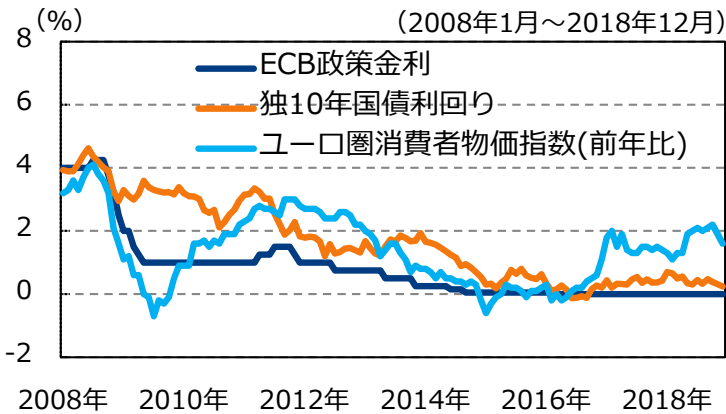
欧州マーケットビュー



■ 2018年7-9月期の実質GDP成長率は、前期比年率+0.6%と前期（同+1.7%）から減速しました。この背景には、米中貿易摩擦の影響による輸出の減少傾向や、ユーロ圏経済を牽引するドイツが、輸出の落ち込みなどから3年半ぶりにマイナス成長に転落したこと、米国とEU（欧州連合）の通商問題や英国のEU離脱を巡り、先行き不透明感から景況感が悪化していることなど、様々な要因があります。

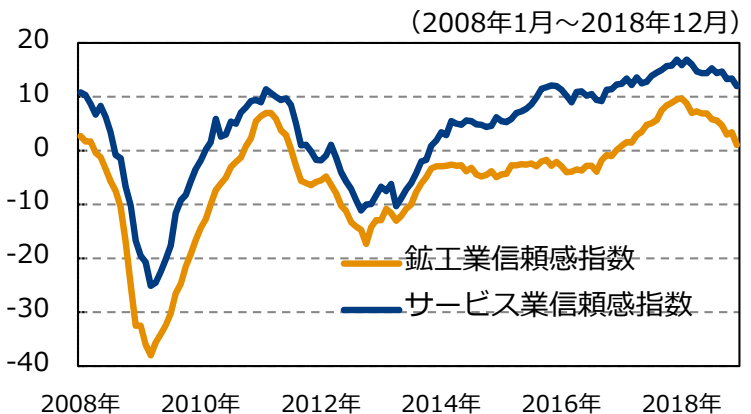
金利とインフレ率

2018年12月のユーロ圏の消費者物価指数改定値（前年比）は+1.6%と伸び率は前月から更に鈍化しました。長期金利は低下しました。



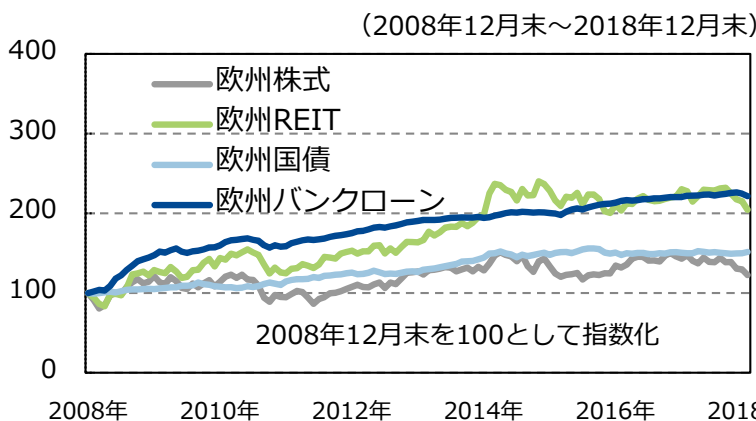
企業景況感

鉱工業信頼感指数、サービス業信頼感指数ともにプラス圏での推移が続いています。足元では軟化が続いています。



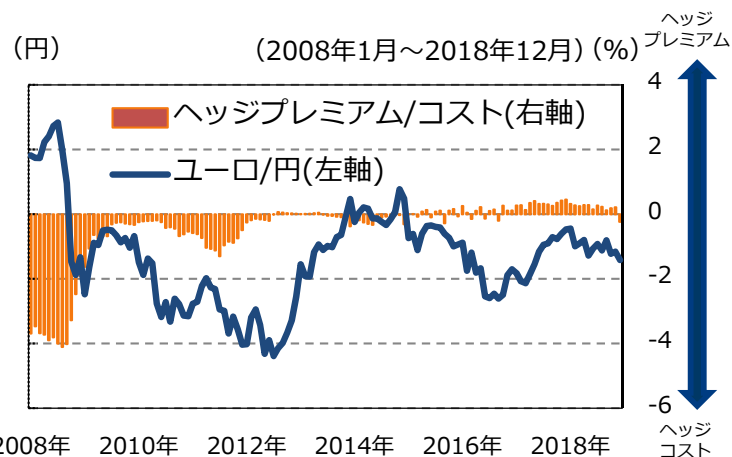
欧州各資産の推移

2008年12月末からの欧州各資産の推移をみると、欧州バンクローンの安定した推移が確認できます。



ユーロ/円及びヘッジプレミアム/コスト

市場のボラティリティが高まった結果、ユーロ円はヘッジコストが発生しました。（2018年12月：▲0.23%）



各種データをもとに大和住銀投信投資顧問作成

※為替ヘッジプレミアム/コストは直物為替レートと期日1ヶ月後の為替予約レートとの価格差（月間平均値）から簡便法により算出

※使用したインデックス

欧州株式：ユーロストックス50指数、欧州REIT：FTSE EPRA/NAREIT Developed Europe Index、欧州国債：FTSE欧州国債インデックス、欧州バンクローン：クレディ・スイス・ウェスタン・ヨーロピアン・レバレッジド・ローン・インデックス